

W-640 取扱説明書

W640-2210

ご購入ありがとうございます。

ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い
下さいますようお願い申し上げます。

本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。
- 付属の電池は、工場出荷時に付けられたお試用電池ですので、製品仕様の表示より寿命が短い場合があります。
(お試用電池とは、時計の機能や性能をチェックするための電池のことです。)

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時 間 精 度: 平均月差 ±30 秒以内 (気温 25℃で使用した場合)
※電波時計による時刻修正を行わない場合
※指針 (針の位置) 誤差
アナログ時計の特性上、指針誤差が生じる場合があります
が、故障ではありませんのでそのままお使い下さい。
秒針: ±1 秒以内、時・分針: ±3 度以内
- 使用温度範囲: 0 ～ +40℃ ※結露なきこと
(外観 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池: 時計用 単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 1 個
振子用 単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 1 個
報時用 単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 2 個
- 電池寿命: 時計用 約 12 ヶ月 (単3形アルカリ乾電池 1 個使用の場合)
振子用 約 10 ヶ月 (単3形アルカリ乾電池 1 個使用の場合)
報時用 約 10 ヶ月 (単3形アルカリ乾電池 2 個使用し、最大
音量で 1 日に 16 回使用の場合)
- 電 波 受 信: 40kHz/60kHz のどちらか受信しやすい電波を受信し、
現在時刻に合わせる
●自動受信 (最多 7 回 /1 日) ●手動受信
- 夜間秒針停止機能: 午前 0 時 2 分～午前 6 時 2 分の間は、秒針のみ 12 時位置で停止
- 報 時 機 能: ウェストミンスターチャイムと時打ち
- 夜間自動鳴り止め機能: 午後 10 時～午前 5 時
- 振子

電波時計について

電波時計とは

標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは

情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所
は、福島県の「福島局: おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にあ
る「九州局: はかね山標準電波送信所」の国内 2 か所にあります。
※標準電波の時刻情報は、およそ 1 0 万年に 1 秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」
によるものです。

標準電波の送信停止について

標準電波は毎時 1 5 分と 45 分から各 1 分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。
また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波 (送信停止) することがあります。
標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

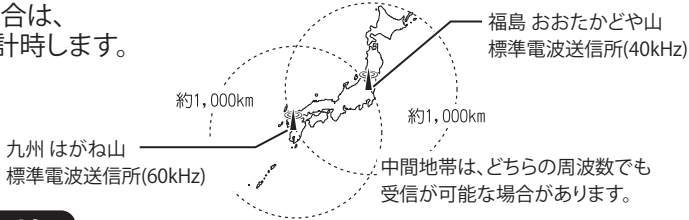
日本国外でのご使用について

本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる
場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場
合があります。あらかじめご了承ください。

電波の受信範囲について

送信所からおおむね半径 1000 km とされています。

※電波を受信できない場合は、
内蔵クォーツの精度で計時します。



電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
- ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
- 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
- 自動車、電車、飛行機などの中
- 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
- スチール机などの金属製家具の上や近く
- 朝・夕の時間帯や雨天のとき

※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作を
行い使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準
時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jjy.nict.go.jp>

電池の交換について

- 時計用電池容量が少なくなると、秒針の進みが目に見えて遅くなります。
自動電波受信のときは針がぐるぐる回ります。
このような場合は、速やかに新しい電池に交換して下さい。
- 振子用電池容量が少なくなると、振子の動きが鈍くなり、やがて止まります。
このような場合は速やかに新しい電池に交換して下さい。
- 報時用電池容量が少なくなると、音量が小さくなったり、音がひずんだりします。
このような場合は速やかに同じ種類の新しい電池に 2 個同時に交換して下さい。
※買い置きの電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管
状態により、電池寿命が短くなることがあります。

故障かな?と思ったときには…

※製品が正常に作動していないときは修理を依頼する前に下記を参考にお確かめ
下さい。

針がぐるぐる回る

考えられる原因	処 置
電池容量が少ない	時計用電池を新しい電池に交換して下さい。
電池を入れた直後の 電波の受信の準備中	そのままお待ち下さい。 早回りしている針は正午(12時位置)で一旦停止 します。 電波を受信すると、自動的に針を現在時刻に合わせ ます。 ※その間ボタン操作はしないで下さい。
時刻修正中	そのままお待ち下さい。 電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に 合わせます。電波受信に失敗した場合、通常の運針 を始めますが現在時刻ではありません。 本書 電波受信ができなかった場合 を参照して下さい。

秒針が止まって動かない

考えられる原因	処 置
夜間秒針停止中	そのままお待ち下さい。
午前/午後を間違えて 設定している (手動設定時)	※内蔵プログラムにより、午前0時2分から午前 6 時 2分までの間、秒針が12時位置で停止します。 ※ 手動で時刻を設定する場合、午前/午後を間違えて 設定すると、日中に夜間秒針停止機能が作動して しまいます。 ※本製品は、秒針位置の誤差を自動で修正します。
針がぐるぐる回った 直後の電波受信 中	
秒針位置の自動補正中	

時計が動かない

考えられる原因	処 置
電池容量が無い	時計用電池の⊕⊖の向きを確かめて、新しい電池を 入れて下さい。
電池が入っていない	
電池が正しい向きで 入っていない	
電池端子の接触不良	端子の表面をふいて電池を入れ直して下さい。

時計が止まる、または遅れる

考えられる原因	処 置
電池容量が少ない	時計用電池を新しい電池に交換して下さい。
電波障害	リセット操作をして下さい。 本書 リセット操作について を参照して下さい。

時分針が早回りした後、動かない

考えられる原因	処 置
電波の受信 中	そのまま17分程お待ち下さい。その間ボタン操作は しないで下さい。
電池容量が無い または容量が少ない	時計用電池を新しい電池に交換して下さい。

振子が動かない/報時音が鳴らない

考えられる原因	処 置
電池容量が無い	振子→振子用電池の⊕⊖の向きを確かめて、 新しい電池を入れて下さい。
電池が入っていない	
電池が正しい向きで 入っていない	報時→報時用電池の⊕⊖の向きを確かめて、同じ 種類の新しい電池2個を入れて下さい。
電池端子の接触不良	端子の表面をふいて電池を入れ直して下さい。

報時音が小さいまたはひずむ/異音がする

考えられる原因	処 置
電池容量が無い または容量が少ない	報時用の電池2個を、同時に同じ種類の新しい電池 に交換して下さい。

各部の名称

本体裏面部分図

■スピーカー

■壁掛け部

■M.SETボタン: 電波を受信できないときなど手動で時刻を合わせるときに使用します。

■RECボタン: 手動受信をするときに使用します。

■音量調整ツマミ: 右に回すと音量が大きくなり左に回すと音量が小さくなります。

■モニターボタン: 報時を試聴できます。

■リボン

■時計用電池ホルダ:
報時用・振り子用電池を入れた後、単3形乾電池1個を⊕⊖の表示に合わせて入れて下さい。
※電池を入れるときは、リボンを電池の下に敷き⊕側から入れて下さい。
※電池を外すときはリボンをゆっくり手前に引き、電池を取り出して下さい。

■報時用電池ホルダ:
振り子用・時計用電池を入れる前に、単3形乾電池2個を⊕⊖の表示に合わせて入れて下さい。
※報時が必要ない場合は電池を外して下さい。
※電池を入れるときは⊖側から入れて下さい。
※電池を外すときは⊕側から外して下さい。

■振り子用電池ホルダ:
報時用電池を入れた後、時計用電池を入れる前に単3形乾電池1個を⊕⊖の表示に合わせて入れて下さい。
※電池を入れるときは、リボンを電池の下に敷き、⊖側から入れて下さい。
※電池を外すときはリボンをゆっくり手前に引き、電池を取り出して下さい。

■電池フタ ツメ受け穴

振子の取付方法
振子を本体裏面の
下の方へ差し込んでから、振子ハンガーにしっかり掛けて下さい。

電池フタ

■ツメ部分

■バネ部分

注意

種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないで下さい。
電池の破裂や時計の故障の原因となります。

ご使用方法

1.電池フタを開ける

電池フタの2か所のバネ部分を押しながら開けて下さい。

2.振子を取り付ける

振子軸を固定しているテープをはがして下さい。
袋から振子を取り出し、振子を振子ハンガーに取り付けて下さい。
※振子は、振子軸に対して垂直に取り付けて下さい。

3.電池を入れる

1)報時用電池ホルダに単3形乾電池2個を⊕⊖の表示に合わせて入れて下さい。
2)単3形乾電池2個を「振り子用」→「時計用」の順で、リボンを下に敷き、それぞれの電池ホルダの⊕⊖の表示に合わせて入れて下さい。
※時計用電池を入れるときは、振子軸を右にずらして下さい。

4.電波を受信させて時刻を合わせる

■初期電波受信(電池をセットして最初の電波受信)の流れ
①電池を入れると秒針/分針/時針が高速で回り始めます。
②3針が12時で停止します。
③電波受信を始めます。
④電波受信が終了したら、再び針が回りだします。
●電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。
●電波受信に失敗した場合、時刻を修正せず、針が12時から動きだします。

初期電波受信の流れ 約30分間

①電池挿入後
針が回り始める

②12時で停止
ピタッ

③電波受信開始
針は停止中...

④受信終了
針が回りだす

電波受信結果

●受信成功: 時刻が現在時刻に合う。
●受信失敗: 時刻を修正せず、12時から動きだす。

■電波受信に失敗した場合→再受信させる
12時位置から運針を始めた針が、12時16分になると3針が止まって再び電波受信を始めます。(この時秒針は12時の位置で停止)電波受信が成功するまで毎時16分になると電波受信を始め、最大で15回繰り返します。
⇒電波を受信できなかった場合を参照して下さい。

5.時計を掛ける
本説明書の時計の掛け方についてと電波時計についてを参照して下さい。

電波を受信できなかった場合

W640-2210

1. 朝までそのままにしておく

※一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。

2. 設置場所を変えて受信をやり直す

電波を受信しやすい場所に時計を移動し、再度手動で電波を受信させて下さい。
本書の電波時計についての電波を受信しにくい環境と手動受信についてを参照して下さい。

3. 手動で時刻を設定する

電波受信は行わずに、M.SETボタン操作で時刻を合わせる事ができます。電波を受信できない間は、内蔵クォーツの精度で計時します。本書手動で時刻を設定するを参照して下さい。

手動受信について (ボタンを押して電波を受信させる)

※電波を受信しにくい環境を参考にしてご使用下さい。

1. 通常運針時(電波受信中外)に、RECボタンを3秒長押しする。

2. 3針がその場で止まり、電波受信を始める。

●電波受信に成功した場合は、3針がそれぞれ早回りをし、12時位置で停止した後、針を現在時刻へ合わせます。
●電波受信に失敗した場合は、時刻を修正せず、3針が止まっていた位置から動きだします。

手動で時刻を設定する

注意

電波受信中は、手動による時刻設定はできません。
電波受信中とは、受信のための時分秒針の運針中または停止中のことです。

1. 通常運針時(電波受信中外)に、M.SETボタンを秒針が停止するまで押し続ける。

→手動で時刻が設定できる状態になります。

2. (秒針が停止中)にM.SETボタンを押して時刻を合わせる。

※7秒以上何も操作をしないと通常運針を始めます。1回押すごとに分針が1分ずつ進みます。ボタンを押し続けると早回りをし、放すと停止します。
※お使い始めの電波受信中の針は、正午(12時位置)で停止します。合わせたい時刻が午前の場合は、12時間以上移動させて現在時刻に合わせて下さい。

3. 時刻合わせが終了したら、M.SETボタンを放して7秒以上待つ。

→針が動きだして設定が完了します。
※手動で時刻を設定した場合、自動受信時間になると、電波を受信する状態になります。
電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。

自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

夜間秒針停止機能について

本製品は内蔵プログラムにより、午後0時2分から午前6時2分までの間は、秒針のみ12時位置で停止します。
※夜間秒針停止中であっても自動受信のときは、秒針が動くことがあります。また時・分針も通常運針以外の動きをする場合がありますが故障ではありません。
※夜間秒針停止機能の解除、停止時間帯の時刻設定はできません。

夜間自動鳴り止めについて

本製品は内蔵プログラムにより、午後10時から午前5時までの間、報時は鳴りません。
※手動で時刻を設定する場合は、午前と午後にご注意下さい。お使い始めの電波受信中に時・分・秒針が停止する12時は、原則として正午(12:00)となります。
※報時を必要としないときは、報時用電池2個を外して下さい。

リセット操作について

操作中に不明な点が出てきた場合は、全ての電池を電池ホルダから一旦取り外し、時計用電池を時計用電池ホルダにプラスマイナスを逆にに入れて2秒後に取り出して下さい。(この作業をする事によって、内部に残った電流を取り除きます。)
その後、報時用→振り子用→時計用の順に、⊕⊖の表示に合わせて電池を再挿入して下さい。設定されている内容が初期の状態に戻ります。(初期電波受信を開始します。)

静電気の影響

静電気の影響により、正常に動かなくなることがあります。このような場合、リセット操作をして下さい。

時計の掛け方について

注意

掛け方が不適切な場合、落下する危険があります。

●掛け具に時計を掛けた際に、時計本体を上下・左右・前後に軽く動かして、確実に掛かっていることを確認して下さい。

●時計は垂直・水平に掛けて下さい。時計に傾きがあると時計の精度や機能が正常に働きません。

●ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に掛けて下さい。

●落下の原因になりますので、壁掛け部以外には掛けないで下さい。

●壁の裏側に電気配線等がある場所に取り付けると掛け具で電気配線等を傷つけ、火災・感電につながる恐れがあります。事前に電気配線等の位置を確認し、取り付けて下さい。

●壁の材質・構造を確認の上、この時計の重さに充分耐えられる掛け具を選んで下さい。
※材質・構造がご不明の場合は、建築メーカー等へ相談して下さい。

壁掛け部

本体

<正しい掛け方>

<横から見た場合>

<正面から見た場合>

OK!